

養殖カキのブランド化に向けた集団選抜育種

水産技術センター 水産増殖部 谷田 主席 研究員

【背景・目的】

県内で養殖されるカキは主に「むき身」で流通していますが、最近、徐々に「殻付きカキ」での出荷が増えてきました。そこで、兵庫県産カキのブランド化をめざす上で、他のカキとひと目で区別できるような、外殻の「色」や「形」に特徴をもった養殖カキをつくることを目的として、複数の親を用いた集団選抜育種による品種改良を試みました。

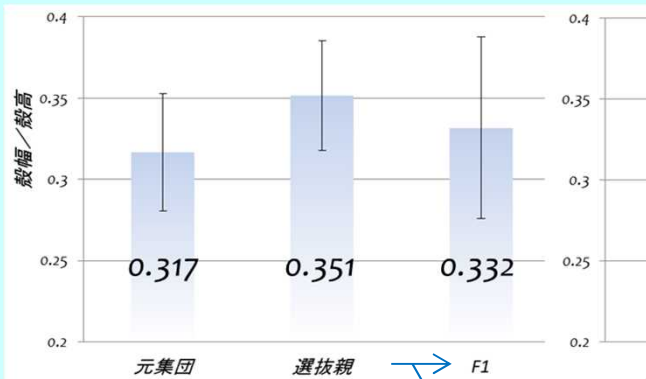
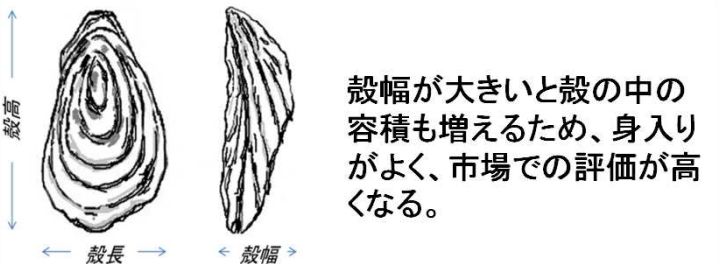
【成果】

①殻の色に着目した集団選抜育種

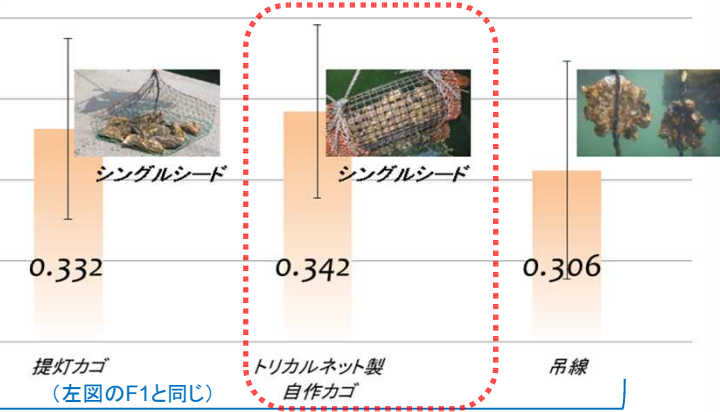
- ・天然のマガキの外殻の色はさまざま（黒っぽい、白っぽい、黒色や白（黄）色が入り混じったものなど）
- ・外殻の色に特徴のあるもの（全体に黄または白色、黒地に一本の白縞、白地に複数の黒縞）を親として集団選抜育種
⇒F1世代でほぼ親と同じような色調が発現

②殻の形（殻幅）に着目した集団選抜育種

- ・シングルシードで育成した天然マガキから殻幅が大きい（殻幅／殻高>0.3）ものを親として集団選抜育種
⇒F1世代の殻幅は、元集団より有意に大きくなること判明
- ・F1世代をシングルシード（提灯カゴ、自作カゴ）及び従来の育成方式（ホタテガイに付着させた吊線式）で育成すると各方式間で『殻幅／殻高』に有意差があった。
⇒殻幅が大きい形質の発現には、吊線式ではなく、シングルシードのカゴ養殖（トリカルネット製自作カゴ）が適することが判明



→ 集団選抜育種による育種効果 (図1)



→ 育成方法の違いによる形質差 (図2)

殻の形（殻幅）に着目した集団選抜育種

【技術の活用】

形の良い養殖カキをつくるのに適した新たな養殖方法（シングルシードのカゴ養殖）の定着を進め、将来的には、集団選抜育種手法の技術移転を行い、色や形に特徴をもった兵庫県産養殖カキのブランド化をめざします。